

日本保健物理学会

第2回福島事故・放射線防護専門研究会 議事メモ

1. 日時：平成27年10月29日（木）13:30~16:30
2. 場所：東京（〒105-0004 東京都港区新橋4-29-6 寺田ビル 3階セミナー室）
3. 出席者：（委員）小佐古主査、谷幹事、荻野幹事、橋本幹事、服部委員、笠井委員、竹安委員、川島委員
（オブザーバ等）3名
4. 配布資料
 - 2-0-1 議事次第
 - 2-0-2 出欠リスト
 - 2-0-3 第1回研究会議事メモ
 - 2-1-1 廃炉支援部門について
 - 2-1-2 廃炉・汚染水対策に係る研究開発の連携強化について
 - 2-2 提言後のアクションと今後の対応の整理
5. 主な議事
 - (1) 福島第一原子力発電所廃炉研究開発連携会議の概要について
 - 資料2-1-1及び2-1-2に基づき、竹安委員より説明があった
 - 政府機関、民間企業、大学等において実施する廃炉・汚染水対策に係る研究開発の推進体制について、全体像を把握した
 - 連携会議では、関連学会による活動・検討に関する情報にも注目しているとのことである
 - ⇒ 原子力学会では主として原子炉のリスクや除染関連の課題について検討されているが、保健物理学会では線量に関する課題を取り上げている点で異なる
 - ⇒ 例えば、燃料デブリの取り出しに際して、平常時の線量限度で対応できない点を課題として指摘することが望ましい

(2) 提言後のアクションと今後の対応の整理

- 資料 2-2 に基づき、橋本幹事より説明があった。
 - 個々の提言に対する議論・意見は、資料 2-2 に集約する
 - 緊急時の防災に関して、TMI を経験した米国の指針が参考になると思われるため、これを紹介する機会を設けることが望ましい
 - ⇒ チェルノブイリ事故後のスウェーデン等における対応も役立つかもしれない
 - 研究会としては、かくあるべき放射線防護の考え方を示すことが重要である
 - ⇒ これからの対応に関連する提言に焦点を絞る必要があるかもしれない
 - 現地での研究会の開催も有意義である
 - ⇒ 提言後の動向について、ある程度フォローアップできたところでシンポジウム等を開催しても良い

以上